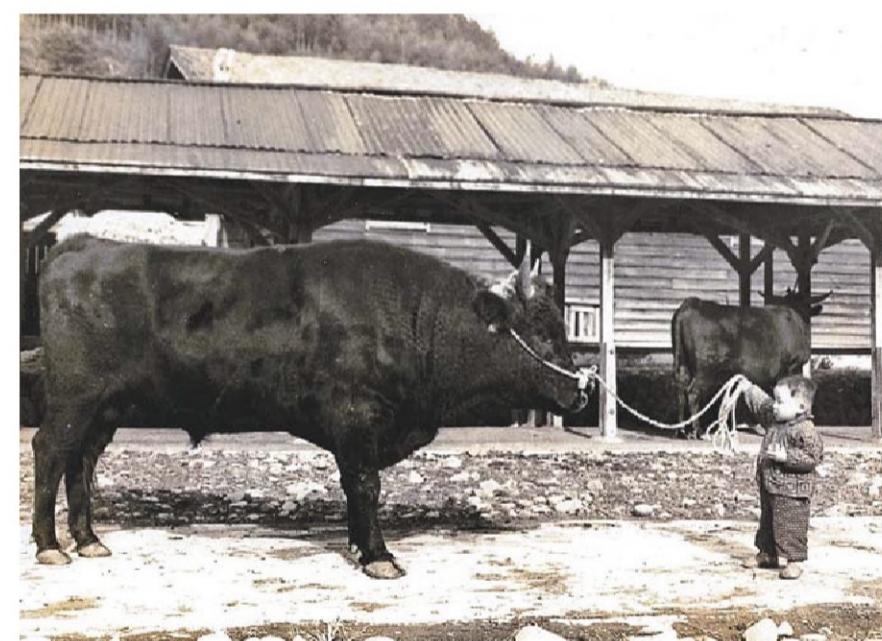


牛と絆で結ばれた暮らし

■筆者プロフィル■
わたなべ・ひろなお
1954年、新温泉町浜坂出身。県職員として畜産行政に長年携わってきた。県立但馬牧場公園「但馬牛博物館」館長。



種雄牛の綱を持つ男の子

弟をおんぶひもで背負い、子牛をなでお姉ちゃんの優しい顔。放牧場で子牛と遊ぶ少年の笑い声が聞こえてきそうな笑顔。出荷前の子牛を一生懸命磨くけなげな姉弟、そして振り返りながら市にひかれて行く子牛を寂しげに見送る姉弟。

但馬牛博物館には、牛との深いつながりなら、むしろ但馬牛を農耕に使っていた時代の、子どもと牛の写真がふさわしいと思う。

メディアから、一つ屋根の下に牛が住む「マヤ」の写真是無いかと問い合わせがあった。人と牛の深いつながりの証としてマヤの写真を使いたいという。だが残念ながら博物館にマヤの写真はない。

しかし人と牛の深いつながりなら、むしろ但馬牛を農耕に使っていた時代の、子どもと牛の写真がふさわしいと思う。

メディアから、一つ屋根の下に牛が住む「マヤ」の写真是無いかと問い合わせがあつた。人と牛の深いつながりの証としてマヤの写真を使いたいという。だが残念ながら博物館にマヤの写真はない。

しかし人と牛の深いつながりなら、むしろ但馬牛を農耕に使っていた時代の、子どもと牛の写真がふさわしいと思う。

渡辺 大直



★45★

ながりを雄弁に語る、子どもたちの素直な表情を捉えた写真がある。ところが電話取材には響かなかつた。

元美方郡畜産農業協同組合連合会参事の松村義男さんは、若い時から但馬牛のさまざまな姿や人と牛が織りなす風景を撮り、今に伝えてくれている。

その中に、「よく撮ったなア」と驚く一枚がある。それは巨大な種雄牛の綱を一人で持つ2歳くらいの男の子の写真だ。